

参加者  
募集！

2014年度 後期 FBL/PBL演習のご案内

## 新しい学習環境のデザイン — 創造性を育む場を作る —



### ◆ FBL/PBL演習とは？

デザイン学大学院連携プログラム（デザインスクール）は、実問題の発見と解決を強く意識しています。授業の一環として、実社会をフィールドとし、内在する問題や社会的期待を抽出する問題発見型学習（FBL: Field-Based Learning）と実社会の問題に対して学生が自主的に解を見出す問題解決型学習（PBL: Problem-Based Learning）を開講しています。いずれも、異なる専門領域の学生で構成するチームで取り組みますので、さまざまな分野を専門とする大学院生、学部生の参加を歓迎します。

### ◆ 今回のテーマの背景

今日、教員中心の知識伝達型の学習から、学習者中心の主体的な知識構成型の学習への移行が模索されています。具体的な取り組みとして、教室を改変し、アクティブ・ラーニング型の授業を行いやすくするラーニング・スタジオ、図書館内に自律的・協調的な学びを促進する場を提供するラーニング・commons、より開かれた学習の場となるコミュニケーション・スペースなど様々な取り組みが成されつつあります。

京都大学附属図書館においても、ラーニング・commonsが2014年4月に開設され、昨年度のFBL/PBL演習では、授業の一環として企画・協力を行いました。そして、今回の実習で題材とする学習環境・学習空間は、昨年度に引き続き、附属図書館のラーニング・commonsです！

### ◆ 本実習の流れ

附属図書館のラーニング・commonsの学習環境・学習空間の問題点が浮き彫りになるような実態調査を計画し、実際に実施し、統計分析にかけます。次に、ターゲットとなるその問題点を解決するための方策についてグループで議論したうえで、提案を行います。その際には、他大学のラーニング・commonsとの比較を行います。そして最後に、その提案が実際に効率的な学習を促進する要因として機能するかどうか、実験や調査などを行ったうえで実証的なデータを示し、その提案内容の妥当性や実際の効果を検証し、そして新たに浮上った問題点や課題について検討を行います。

また、学校・科学館・図書館などを実際にデザインしている大学ならびに民間企業の専門家などを外部講師として招聘します。

研究成果は、附属図書館をはじめとする学習空間のデザインや活用方法に提言を行って実際場面において役立てるとともに、高等教育研究開発推進センター主催の大学教育研究フォーラム（3月13・14日）において、全国の大学関係者に向けて、ポスター発表を行います。

### ◆ 実施日時・場所

2014年10月から2015年1月までの月曜4・5・6限、おおよそ隔週で吉田キャンパス内にて実施します。すべての曜限に参加できない場合も相談可能。

### ◆ 応募方法

以下の6項目について記載したeメールを [takahashi.yusuke.3n@kyoto-u.ac.jp](mailto:takahashi.yusuke.3n@kyoto-u.ac.jp) まで送付してください。  
1. 氏名, 2. 所属, 3. 学年または役職, 4. メールアドレス, 5. 専門分野, 6. 応募の動機を一言。

#### 実施責任者：

楠見 孝（教育学研究科）  
高橋 雄介（教育学研究科）  
北 雄介（デザイン学ユニット）

#### 実施協力者：

喜多 一（国際高等教育院・学術情報メディアセンター）  
北村 由美（附属図書館研究開発室）  
塩瀬 隆之（総合博物館）  
元木 環（情報環境機構）  
石川 敦雄（竹中工務店技術本部技術企画部）  
西田 恵（竹中工務店技術研究所環境計画部）

